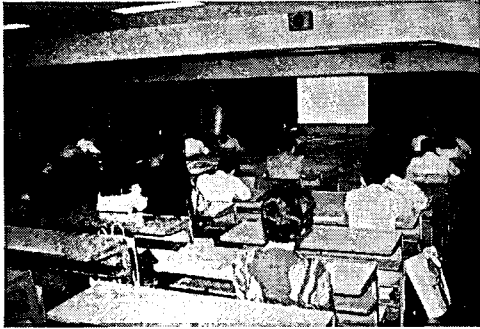


全日本博物館学会に出席して

今井雅巳



全日本博物館学会の平成元年度総会及び第15回研究大会が、6月4日(日)東京の国学院大学で開催されました。

この全日本博物館学会は、1973年8月に創立された、博物館学を研究対象とする学会です。博物館の学芸員、大学の博物館講座関係者、博物館に興味・関心をもつ人々など、あくまで個人として博物館学を学び研究しようとする者の集まりです。会員は全国に約300名余います。

今回の研究発表では、高橋雄造氏(東京農工大)の「科学技術博物館ノート～歴史・現状・批判～」と、中村博幸氏(京都文教短期大学)の「“博物館における視聴覚”研究の必要性」を大変興味深く聴いて参りました。

高橋氏は①科学技術博物館の歴史、②世界における科学技術博物館の現状、③科学技術博物館とは何かとの3章からなる未発表論文をレポートの形で、特に第3章の科学技術博物館の理念・本質について、大学研究者としての深い考察と世界各地の博物館を訪ねられた経験から極めて鋭い指摘・批判をされました。近日中には論文として発表される予定とのことでしたが、是非とも読んでみたい本となるでしょう。

中村氏は、大学の博物館講座で視聴覚教育を担当する教官の立場から“博物館における視聴覚研究の必要性”を説かれました。

- ①AV機器導入の要因
- ②系統的研究の必要性
- ③研究の課題
- ④研究内容

こうした研究の必要性とは「最近の博物館は従来型の博物館とは大きく様変わりしている。それは新設の博物館ばかりでなく、既設の博物館の改築にもみられる。(中略)視聴覚機器の多用も目立つ。しかしその導入にあたり、最適な機器の研究や、効果の系統的な評価がなされているとは言いがたい」との考えからの提言です。また、博物館学芸員と視聴覚教育との関係についても、具体的な実践研究をふまえつつ、示唆に富む発表をされました。

AV機器の目ざましい発達と、業者の売り込み、社会の風潮に流されて、視聴覚教育の本質をよく研究することなく博物館がAV化することへの批判も含まれていたように思われ、博物館としてAV研究が不可欠との念をもちました。

また、特別講演は、「生涯教育と博物館の課題」と題して、高桑康雄氏(上智大学)が話されました。高齢化社会、高度情報化社会、高教養時代にあって、生涯教育機関として博物館が果たすべき役割、使命は極めて重要なものとなってくるとの内容でした。

博物館がよってたつ博物館の理念、具体的実践、様々な情報交換がなされました。学会の事務局は国学院大学博物館学研究室にあります。

(岐阜県博物館学芸員)

病院の博物館的展示

テキサス・ダラス・ベイラー総合病院

(歯科大学病院の巻)

吉田幸平

ベイラー総合医科歯科大学

テキサス・ダラスの東北に巨大なベイラー総合医科歯科大学がある。ベイラーの名は、ダラスと共に古い大病院でもあり、癌センターから歯科大学、看護婦大学等、人間医学に関する生から死に至るすべての分野を含んでいる総合人間医学大学病院でもある。またこの大学進学専門の高等学校も附属機関としてある。高校時代からこの大学に進学専門養成の基礎知識を与えるというのである。

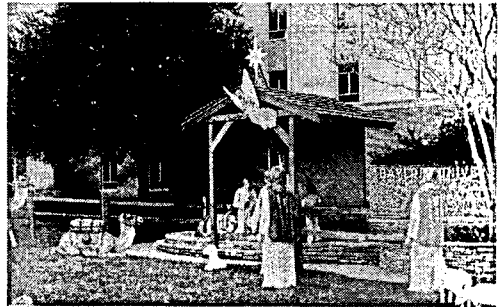
総合病院の朝と概要

ダラスは朝7時25分が日の出時間である。駐車場の満車を予想して6時30分に行ったが、6階建の駐車場はほぼ満杯であった。まだ外は真暗であるが病院の朝は早く、勤務員の往来が繁しく、8時30分には雑踏的であった。

食堂のカフェテリア(バイキングスタイル)は、広く大きく、勤務員もここで朝食をとるのであろう、白衣の勤務員が目立った。玄関前の屋外にはXマスシーズンで、写真No2のように聖書に登場する物語りが蠟人形の等身大でデコレーションで飾られ心暖まる思いがした。このマンモス病院で関心を持ったのは、正面玄関のに入った所や2階の休憩室、患者待合室あるいは喫茶室等の膨大な病院のスペースは、ゆったりしているが、必ずそれ相当の展示が博物館的ウインドーを設置していることであった。医学博



No1 ベイラー総合医科歯科大学



No2 大学正門前

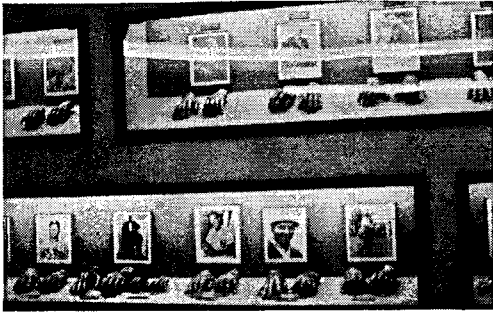
物館かと錯覚する位だ。

正面玄関の展示

正面の大玄関の回転ドアのに入ったベイラーの大理石の胸像は、この大学を寄贈した記念だという。アメリカに来て教えられることは、博物館とか公共的建物に利用されているものに多くが寄附でなされていることである。例えば、スミソニアン・ゲッター・ハンチントン等の大博物館はそれらの人の個人コレクションと邸宅の寄贈において開放されているということである。1988年9月にオープンしたロスアンゼルス・カウンティ・ミュージアムの日本パビリオンもその1つである。博物館の中に溪流を作り、その上に掛軸を掛けるという、湿気対策を考えて作られた常設日本館の「心遠館」は建築物も大きく、来館者をエレベーターで上に送り螺旋型階段にして上から下へと見る者を歩かせるといふ画期的でゴーフ氏のアイディアのものだが、その展示品の軸はコレクター・ジョープライス氏の寄贈によるものを中心として、日系人の寄附金によって建てられたものである。



玄関のベイラー氏の胸像の回りが、指と手甲の大展示で囲まれている。蠟で作った職業病の指、生まれながらの指の奇形、それに代々の大統領や有名人の歌手、スポーツ選手等あらゆる階層の有名人の手甲の型をとって鋳物に流した



№3. 正面玄関のホールにある知名士の写真と手ものとその顔写真が展示してある。かつての野球のデマジオ選手の手甲が予想より小さいのには驚いたが、右と左の手甲や指の長さがすごく違っていることであった。気の早いというか、既にブッシュ副大統領が大統領として、顔写真と手の甲2つが展示されていた。

歯科大学病院の展示

2階の歯科の受付の廊下には、この病院・大学で獲得したあらゆるスポーツのトロフィーがウインドーに所狭しと並べられていた。その数85個が3段に並べられており、そのラベルを見ると、ベースボール・ソフトボール・ゴルフ・テニス等、広範囲のものであった。

歯科大学とはいえ、相当スポーツの盛んな大学でもあることが知れた。日本の歯科大学とは基本的に異なっていることを教えられた。マラソンの優勝ランナーのシューターが医学生であったことを思うと、その強健な体力とスポーツへの情熱に叩頭こうとうの念に駆られるのである。

各廊下の待合室や休憩室には、それぞれ相当のPR用の展示が写真や蠟人形で作られ、病院における展示の意義を痛感した。筆者はここ3年間に右結腸癌・腸閉塞それに今夏は腎臓結石7個の手術を受けたが、これらの検査や受診・入院のため、日本でどれだけ病院通いや入院生活を余儀なくされたことか。そして、病院での受診までの待つ時間の長さ、最少限2～3時間は待たなければならない。その間、患者はただ茫然ぼうぜんとして空費しているのである。この空費時間を病院は社会教育の時間に変えたなら大きな予防医学と教育の祝聴覚の一環になるのではないか。病院の新しい一面として位置づけること

が出来るのではなかろうか。

また、この歯科病院の廊下には、歯科治療に使用した古い赤絨壇じゅうたんのチェアーや足踏式の歯のグラインダーが当時の治療キャビネットと共にアンテークとして展示してあった。大きなウインドーである。

少年時代に歯科医に行って、ぞっとするような音とあのグラインダーで削られて精神的にもまいってしまったことを思い出した。半世紀の間に回転数の早いことによって、その痛みを感じない技術の進歩を、このグラインダーを見て認識した。現在日本の歯科関係で、この発達記録の歴史的展開を展示しているのは何処にあるのだろうか、若しあったとしても数少ないものであろうと思われた。この大学の展示は当時の歯科治療室の古い窓枠まで作って演出していることであった。



その他の展示と委員会

特に感じたのは、某医師の東洋楽器の収集の展示である。尺八を中心として、竹製の楽器に興味があるらしく、自分の研究のフィールド・ワークの折に収集した笛を中心としたコレクションの展示である。一医師の収集品展示として強く注目させられた。尺八・琵琶・箏から銅鑼…等、赤絨壇をバックに張り、テグスで綺麗に縦にとめられ、博物館の展示が心憎い程されていた。その手前下には「Japanese Music and Musical Instruments」(日本音楽と音楽器) ウイリアム・マルム著の部厚い著書が置かれていた。その表紙には、桜満開の下で赤絨壇2段に長唄を歌っている絵であった。これ等が病院



№4 歯科病院の古歯科器具の展示

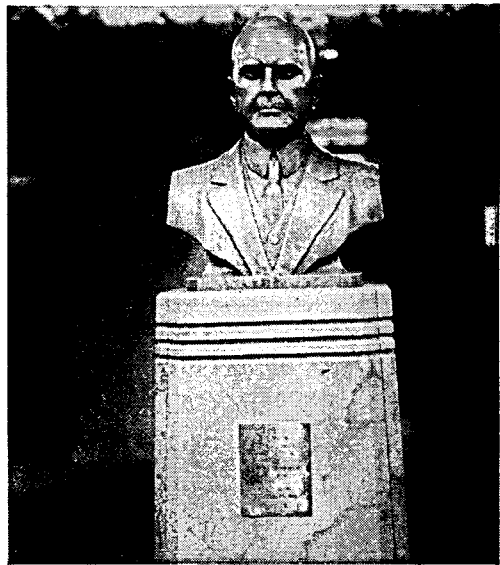
における組織活動の1つに展示委員会があり、そのクラブ活動として行われていることが知れた。

解説には「This is a first in a series of display showing outside of Baylor personal, The project was conceived by the Exhibits and Display committee」(これはシリーズ展示の第1回目である。プロジェクトは公開展示委員会によって考えます。)とあった。この展示がシリーズとして続き、また病院の後援会メンバーからも借りて行われることが知れた。即ち病院における展示委員会という組織があることである。



この展示の位置は簡単にいえば廊下と喫茶部との仕切りにウインドーをおいて利用したといった方が良いかもしれない。

長い広い喫茶部の奥へは1列に9個の黄色のテーブルと腰掛が3列もあり、一方は展示、一方の奥は最近流行のベンジン・マシンの自動販売機の列である。左側はガラス越しに中庭になっており、Xマーズシーズンで3本の木に豆電球が点滅し、真中の一段高い所の噴水からは多くの水が流れ、豆電球が水の中でも点滅していた。そのテラスのテーブルと腰掛は、アンティーク的なもので傷んではいたが、テーブルの上には塵一つない手入れの行き届いたものであった。往来の人の多くが白人で、黒人は食堂とか看護婦位に時々見るぐらいで、白人マンモス医学殿堂のメッカであり、テキサスの中心的医学の存在である。もちろんアメリカの病院の全部がこういったディスプレイや環境が整っているとはい



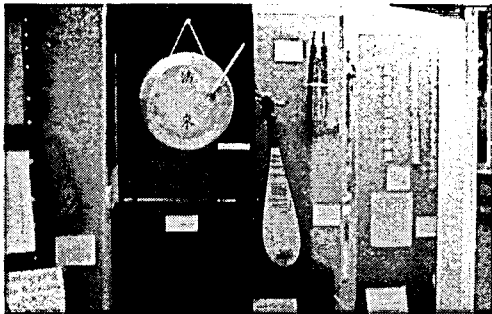
No 6 大学を寄附したベラー氏の胸像

えない。

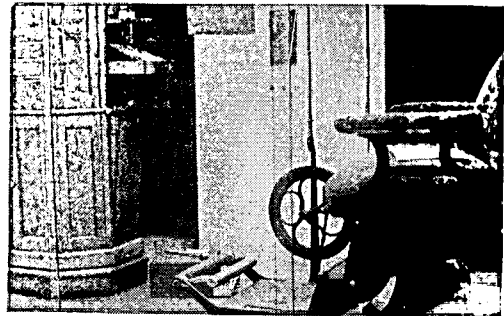
ロスアンゼルス・C病院のあのマンモス病院は設備も古く、医師も治療も悪評判の病院でもある。朝行って日の暮れになって、やっと受診を受けた筆者の経験もある。こんな病院には、前述の展示などということは考えられないのかもしれない。

アメリカは私立が優位で、公立が下という概念はこういった所でも表われている。ベイラー病院での展示を見て、日本の病院もこういった展示をしてくれたら病院の暗いイメージが少しでも柔らぐのではないかと、展示委員会に敬意を表した。病院における博物館展示は絶対に推進すべきものの一つと提言する次第である。

(岐阜県博物館協会顧問
濃飛甲冑研究所長)



No 5 某医師のコレクションの展示



子育てと博物館

齊藤基生

教育心理学の授業で必ず取り上げられる教材として、^{おおかみ}狼に育てられた双子の姉妹の話がある。彼女らは生まれてすぐ狼に連れ去られ育てられたため、発見当時姿かたちは人間でありながら、行動は狼そのものであった。そして生きながらえて人間社会に復帰した一人も、後々までその一部に狼としての性質を留めていたというものである。そこでなぜ彼女らは狼になってしまったのかと問われれば、それは彼女らが幼い頃狼に育てられたから（氏より育ち）、と答えるのが一般的であり一応正解とされる。つまりたとえ人間であっても育ての親によっては狼に成り下がってしまう、ととらえられている。しかし、これはそれほど底の浅い話ではない。

学生時代教育原理の先生は次のようなエピソードを紹介してくれた。「いつものように狼少女の講義をしていたところある学生が『彼女らは狼に成り下がったのではなく、人間であったからこそ狼に成り得たのではないか』と質問した。つまり、仮にトリやサルなどヒト以外の動物が狼に育てられたとしたら、果たして彼らは狼に成り得たであろうか、『無限の可能性を秘めた高度に白紙の状態』で生まれてくる人間だからこそ、限りなく育ての親に近づけたのではないか、というのである。」

このようにたとえ外見の異なるオヤに育てられたとしても、ヒトはそのオヤの持つ文化・社会性を受け継ぎ、いかなるオヤに対しても文化的にはそのコドモと成り得る。また成り得ることこそヒトをヒトたらしめていると言える。

この話は文化の継承・発展とそれに及ぼす教育の重大さをよく表わしている。そして、家庭教育・学校教育・生涯教育のうち、最初に位置づけられる家庭教育がすべてを決し、我々博物館が担うとされる生涯教育はもう手遅れの観を与えるかもしれない。果たしてそうであろうか。まさか我々博物館人の中には、家庭教育・学校

教育・生涯教育がそれぞれ別個のものであり、それらがある段階を経て順に並ぶと考えている人はいないであろう。生涯教育とはまさに一生涯の教育であり、家庭教育・学校教育・学卒後教育と有機的に結びつき、それらすべてを包括しているのは明らかである。生涯教育とは決してポスト学校教育ではないのである。

人は先の狼少女のように、最初に出合いそしてより身近にいるものの影響を強く受ける。だからこそ家庭教育の重大さは誰もが認める。家庭における教育とは、読み書き^{そくほん}算盤だけでなく、親の持つ文化（ある価値観の体系）を子に伝えることである。親は子よりたかだか数十年長く生きているだけで、実体験の蓄積に若干差があるにすぎない。そのわずかな差だけを後生大事に子育てするのか、あるいは芸術・スポーツ・マスコミなどに積極的に触れることでより多くの仮想体験をし、少しでも己れの幅を広くしようと勧めるかで、子に伝えられる量と質に差が表われるのは当然である。

この仮想体験を、実物資料・模型・映像などを提供することで、生々しくより実体験に近い状態で味わえる場が、博物館である。そこでは観る側もただ感嘆符を並べて通り過ぎて行くのではなく、五感を総動員してモノに触れ、若干面倒かもしれないが自問自答しながら観ることで、仮想体験を自分の血や肉にしてほしい。そこで得た答えをチェックしたり、疑問を解く手助けをするために博物館職員がおり、いくら使っても減ることのない彼らをどしどし利用すべきである。もちろん必ずしも正解が得られる保証はないが、それも楽しみのひとつに違いない。

子育てとはやり直しの効かない実験である。親たるもの広い視野、柔軟な考え、確立した自己の信念をしっかりと博物館で養ってほしい。

（豊蔵資料館 学芸員）

大和町歴史民俗資料館

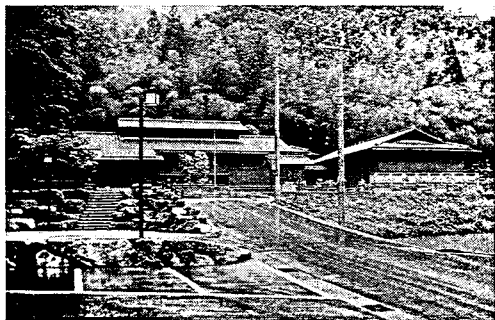
〒501-46 郡上郡大和町牧911
TEL 057588-3244

長良川に別れを告げ、県道寒水～徳永線を東に2Km程はいった山あい、大和町歴史民俗資料館がある。ここは遠く中世の時代に、この地方を治めた東氏が本拠地とした所である。同館の西隣には東氏の氏神が祀られている明建神社、栗栗川をはさんだ対岸にはその居城・篠脇城跡や館跡（庭園は国指定の名勝）がある。町ではあたり一帯の「史跡の里公園」化をすすめており、同館もその一環として昭和63年4月に開館した。

その二棟からなる展示室の一室では、町内出土の旧石器時代から古代にわたる考古遺物、宝暦騒動関連文書、民俗資料等が観覧できる。そして、もう一室には東氏関係の資料がテーマ別に陳列してある。そのなかには、明建神社の祭礼「七日祭り」（県指定無形民俗文化財）の際に使用される祭礼用具や東氏館跡から出土した白瓷系陶器・古瀬戸系陶器・輸入陶器・宋銭がある。さらに「東家本常縁集」・「東家十三代集」・「古今伝授之巻」等、当時歌道の第一人者であった11代常縁とその子孫の活躍を伝える貴重な文献資料が展示してある。また、連歌の会が催された会場の復元コーナーや東氏関連のビデオがあり、視覚的にも楽しめる。

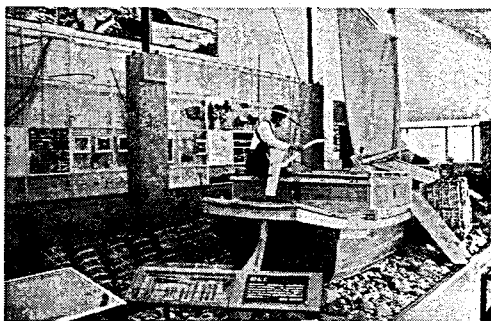
同館の開館によって「古今伝授の里」としての大和町を、より多くの人々が理解することになる。

- 開館時間 9:00～17:00
- 休館日 月曜日・年末年始
- 入場料 大人200円・小中高校生100円



揖斐川町歴史民俗資料館

〒501-06 揖斐郡揖斐川町上南方
TEL 0585-22-5373



国道417号線を揖斐川に沿って北上し、やがて山間地にせまるところに、揖斐川町歴史民俗資料館は位置する。同館は、町の文化遺産を永く保存し、活用していこうという声のもと、昭和62年11月に開館した。

切り妻造りの大小二棟からなる建物の内部には、歴史、民俗の各資料室・収蔵庫のほか、研修室・実習室・ホール等があり、9000点を数える資料が収められている。その中心は、民俗資料にあり、江戸時代より続いた、木材・木炭・石灰を運搬した揖斐川水上交通資料、鮎漁・茶・柿渋・手工業品に関わる資料が、簡潔なパネル説明をまじえて展示してある。そして、歴史資料として、岡田氏・土岐氏・稲葉氏の三武将関連品や石灰文書、町内出土の考古遺物をみることが出来る。

同館では、開館以来「三武将展」・「茶壺展」・「古地図展」等、郷土にちなんだ特別展を開催しており、本年中は「春日局展」を開催している。同館の話では、おりからのブームで町内にある斎藤氏ゆかりの地、城主屋敷跡や月桂院とあわせて訪れる人が多いという。

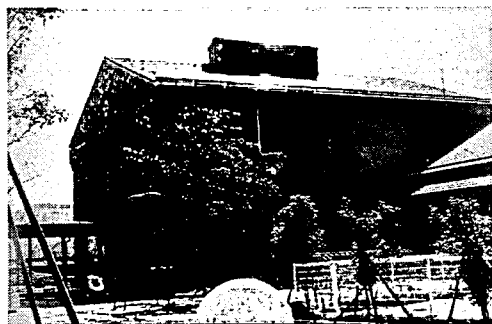
また、町内の人を対象とした古文書研究会や歴史講座を定期的に行ったり、小学5・6年生、中学生にわら細工教室を開講して、教育普及にも力を入れ、好評を得ているようである。今後とも意欲的な資料館活動が期待できる。

- 開館時間 9:00～17:00
- 休館日 月曜日・祝祭日
- 入場料 大人100円・子供50円

(岐阜市歴史博物館 横田 宏)

伊自良村歴史民俗資料館

〒501-21 山県郡伊自良村大字掛字大岡
TEL 0581-36-3339



いじら石どこ 水ない村じゃ 嫁にやるのも 一思案…とかつては唄われた伊自良村であるが、昭和44年には開拓事業も完成し、村の方々の長年の夢はかなえられたのである。この開拓までの苦労の様子は、この伊自良村歴史民俗資料館で伺い知ることができる。

雨の降らない年は、氏神様へ雨乞音頭を奉納することに始まり、多度神社の御幣をいただくこと、干把焼せんばという柴を焼く儀式、そして竜回しの奉納といった一連の行事を行って、雨を待ったのである。今ではこういった行事も行われなくなり、わずかに十六拍子保存会がその音頭を継承し、資料館に資料が展示されていた程度だった。しかし昨年、村の中学の郷土芸能クラブが未来博に出演したのをきっかけに、こういった行事の保存の声が高まっているということである。

また、同じ建物の中に図書館があり、図書館と資料館を合わせて、児童館的な役割を果たしているということである。そして、同じ敷地内に老人福祉センターもあることから、資料館のエリアはお年寄と子供を結ぶ、縦のつながりを作る場でもあると言えよう。とても印象的だったのは、資料館の壁の1枚に、村のお年寄の1人ずつのスナップ写真が貼られてあって、そこに“村を作ってきた人々”と書かれてあったことである。確かに民具等の展示も重要なことであるが、村の歴史を築きあげてきたお年寄をこういった形でさりげなく取り上げた企画は、素晴らしいものだと思われた。

開館時間は9時から5時までで、休館日は、月曜・第3日曜・祝日の翌日・年末年始(12月28日～1月3日)。入場は無料。

本巢町歴史民俗資料館

〒501-12 本巢郡本巢町文殊
TEL 0581-34-2511

本巢までは大垣から樽見鉄道たさみで30分程かかる。静かな田園地帯が窓の外に続いている。本巢町歴史民俗資料館も、その田園の中にあった。

資料館に近づいていくと、まず目に入るのは茅ぶきの民家である。これは、あのダム建設によって水没した徳山村にあった民家で、260年も前に建てられたものである。徳山村から本巢町へ、約70戸の村民の方々が移住されたそうだが、こうして民家の方もここに安住の地を見つけたようであった。家の中には本巢町の方々の寄贈された民具が並べられ、村と町の2つの文化が、そこに共存していた。

また民家の庭には水琴窟みづかきが設けられ、訪れた人が、その美しい音色を楽しめるようになっている。

資料館の展示室の方には、考古・歴史・民俗のそれぞれの資料が並べられている。特に目を引くものは、秣山論争もくざんろんそうの大図面である。これは、畳数枚分もある大きな地図で、240年程前の村の境界線についての論争の判決に使用されたものである。わざわざ江戸まで訴えたものか、大岡越前守のサインも入っており、先日もTVの歴史番組で取り上げられたそうである。

岐阜の小中学生は、“ふるさとめぐり”という社会教育活動の一環としてここを訪れる。現代っ子達にとっての“ふるさと”とは何か、とは難しい問題であるが、この資料館がその答えの一つのきっかけになってほしいものと思った。

なお、開館時間は午前9時より午後4時30分まで、休館日は、月曜と第3日曜及び年末年始(12月29日～1月3日)となっている。入館は無料。



(内藤記念くすり博物館 稲垣裕美)

第40回 公開講座報告

大正ロマンが息づく明智町

「日本大正村のあゆみ」 三宅重夫氏
「日本大正村—大正村役場・大正村資料館を中心—」 三宅喬夫氏の解説による見学
とき H 1. 5. 17 (水)
ところ 明智町商工会館

本年度最初の第40回公開講座は、東濃地区が担当し明智町と共催で、大正のロマンが息づく明智町で開催した。当日は、あいにくの雨であったが、「岩村町郷土史を学ぶ会」の会員の参加も含めて44名の参加者があり、大変充実した講演と見学であった。

三宅重夫先生は次のように講演された。

日本大正村は、昭和59年5月立村式を行った。その時施設はなににもなかった。しかし、マスコミがこの構想に関心を持ち、とりあげてくれ、町も町民も動き始めた。一気に機運がもりあがり、大正村役場、資料館等がオープンした。いわば熱意によって「無」から「有」が生じたと言ってよい。そしてその根底には、明智町の人々が「今あるものを大切にする」という心を

持っていたからである。また日本大正村に来られて心がなごむというのは、ボランティアの人々のあたたかい心に触れるからであろう。これからも愛される、心のふれあいの町にしていきたい。

講演後、三宅喬夫氏の案内で「町全体が博物館」といわれる日本大正村の町並みを見学した。木造洋館の日本大正村役場、元郵便局が建ち並ぶ通りを大正のロマンに^{ひた}浸りながら歩いていくと、各家の入口に花が生けてあることに気づく。新築の銀行・郵便局も、大正の色調で建てられており、効率よりも心を大切にしている点に感動する。オープンしたばかりの大正の館の土壁の数、その美しさに驚嘆し、次の大正村資料館の蓄音機、レコード等に「ハイカラ文化」を感じる。ここでいただいたしいたけ茶は格別においしかった。これは婦人のボランティア活動である。最後にカフェ「天久」でラップつきの蓄音機から流れるレコードを聴き解散した。

本年度の予定

- 第41回公開講座 8月3日(水)
於 揖斐川町歴史民俗資料館
内容 講演「揖斐川町と春日局」
見学 揖斐川町歴史民俗資料館
月桂冠など
- 第42回公開講座 11月20日(月)
於 御嵩町中公民館
内容 講演「中山道」
見学 愚溪寺・願興寺など
- 第43回公開講座 2月17日(土)
於 岐阜市歴史博物館
内容 講演「江戸時代の食事Ⅱ」
見学 特別陳列
「お祝い・お祭り展」



大正路地

第13回会員研修会報告

平成元年度 会員研修会日程

	期 日	内 容	会 場
第 13 回	6 月 14 日 (木)	◦ 展示資料の管理と保存 提案者 研修委員	恵那郡蛭川村 博 石 館
第 14 回	9 月 20 日 (木) ～ 21 日 (金)	第 1 日 目：飛騨地区を例とした地域博 物館のあり方 講 師：交 渉 中 夜：研修及び懇親会 第 2 日 目：博物館見学	飛騨地区 会場及び宿泊先は 交 渉 中
第 15 回	12 月 14 日 (木)	◦ 展示の方法について、(特に手作り 展示を例に) 指導者：展示施工技術者 交 渉 中	関市小屋名 岐阜県博物館

第13回研修会は、下記要領で実施した。

テーマ：「展示資料の管理と保存」

内 容： 岩本採石場での採石現場の見学，
鉱物採集，博石館館内見学

指導者；篠原徳昭氏，上浦覚次氏
(博石館)

「資料の管理と保存」

提案者；小山 司氏 (飛騨民俗村)

参加者； 22名

当日は好天に恵まれ、遠くは本巣郡伊自良村をはじめ、羽島郡川島町などから22名の参加者を得て行われ、充実した研修会であった。

採石場での研修は、花こう岩中にととききみられる晶洞中の水晶、長石などの鉱物の採集を

行った。美しい結晶に魅せられるとともに、参加者の興味を引いたのは、岩石を実際に割る作業であった。石目を読みながら、ドリルで穴をあり、そこに楔を打ち込み石を割る過程は、古代エジプトの人達がピラミットなど種々の石材を切り出していたころの様子を思い浮かべさせる光景であった。

また、「資料の管理と保存」については、小山 司研修委員から、飛騨民俗村を例にして、民具の保存と修理及び、施設の維持・管理について、その困難点など種々の問題点が提起された。このことについての話し合いは、時間の関係で、次回の第14回研修会で充分話し合いを持つこととした。



昭和63年度岐阜県博物館協会歳入歳出決算書

歳入総額 1,112,878円
 歳出総額 1,020,925円
 差引残高 91,953円

★歳入の部★

(単位 円)

科 目	予 算 額	収 入 済 額	増 減 (△)	備 考
会 費	513,000	474,000	△ 39,000	
補 助 金	490,000	490,000	0	岐阜県 390,000円 岐阜市 100,000円
雑 入	1,772	650	△ 1,122	預金利息 650円
前年度より繰越金	147,228	148,228	1,000	
合 計	1,152,000	1,112,878	△ 39,122	

★歳出の部★

(単位 円)

科 目	予 算 額	支 出 済 額	残 額	備 考
事 務 局 費	170,000	157,500	12,500	
通 信 運 搬 費	130,000	130,000	0	
印 刷 費	20,000	7,500	12,500	
需 用 費	20,000	20,000	0	
機 関 紙 費	437,000	408,400	28,600	
印 刷 費	300,000	286,400	13,600	
送 料 費	70,000	70,000	0	
取 材 費	57,000	52,000	5,000	
会 議 費	10,000	0	10,000	
公 開 講 座 費	140,000	102,000	38,000	年4回開催
開 催 費	90,000	68,500	21,500	
印 刷 費	10,000	0	10,000	
通 信 運 搬 費	30,000	26,300	3,700	
会 議 費	10,000	7,200	2,800	
三 県 交 流 研 修 費	100,000	95,880	4,120	当番県 岐阜県
東 海 博 総 会 費	32,000	32,000	0	当番県 愛知県
日 博 協 全 国 大 会	54,000	46,502	7,498	会場 栃木市
総 会 費	73,000	70,020	2,980	5月10日
通 信 運 搬 費	15,000	15,000	0	於: サンピア岐阜
食 糧 費	33,000	30,820	2,180	
会 議 費	25,000	24,200	800	
協 会 会 員 研 修 会 費	60,000	53,660	6,340	年3回開催
常 任 理 事 会 費	70,000	54,963	15,037	
会 議 費	30,000	18,030	11,970	
旅 費	40,000	36,933	3,067	
表 彰 費	14,000	0	14,000	
振 替 手 数 料	1,000	0	1,000	
慶 弔 費	1,000	0	1,000	
予 備 費	0	0	0	
合 計	1,152,000	1,020,925	131,075	

平成元年度岐阜県博物館協会歳入歳出予算書

★ 歳入の部 ★

(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備 考
会 費	548,000	513,000	35,000	
補 助 金	490,000	490,000	0	岐阜県 390,000円 岐阜市 100,000円
雑 入	1,047	1,772	△ 725	預金利息
繰 越 金	91,953	147,228	△ 55,275	
合 計	1,131,000	1,152,000	△ 21,000	

★ 歳出の部 ★

(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備 考
事 務 局 費	346,000	186,000	160,000	表彰楯作成費
通 信 運 搬 費	131,000	130,000	1,000	
印 刷 費	20,000	20,000	0	
需 用 費	20,000	20,000	0	
表 彰 費	164,000	14,000	150,000	
振 替 手 数 料 慶 弔 費	1,000 10,000	1,000 1,000	0 9,000	
機 関 紙 費	337,000	437,000	△ 100,000	機関紙 岐阜の博 物館 年4回発行
印 刷 費	200,000	300,000	△ 100,000	
通 信 運 搬 費	70,000	70,000	0	
取 材 費	57,000	57,000	0	
会 議 費	10,000	10,000	0	
公 開 講 座 費	140,000	140,000	0	年4回開催
開 催 費	85,000	90,000	△ 5,000	
印 刷 費	10,000	10,000	0	
通 信 運 搬 費	30,000	30,000	0	
会 議 費	15,000	10,000	5,000	
三 県 交 流 研 修 費	50,000	100,000	△ 50,000	当番県 三重県
東 海 博 総 会 費	40,000	32,000	8,000	会場 富士吉田市
日 博 協 全 国 大 会 費	25,000	54,000	△ 29,000	会場 名古屋市
総 会 費	73,000	73,000	0	5月9日(火) 於：岐阜市科学館 午前 役員会 午後 総 会
通 信 運 搬 費	15,000	15,000	0	
食 糧 費	33,000	33,000	0	
会 議 費	25,000	25,000	0	
協 会 会 員 研 修 会 費	60,000	60,000	0	年3回開催
常 任 理 事 会 費	60,000	70,000	△ 10,000	
会 議 費	20,000	30,000	△ 10,000	
旅 費	40,000	40,000	0	
合 計	1,131,000	1,152,000	△ 21,000	

東海地区博物館連絡協議会 日本博物館協会東海支部総会報告

平成元年度の上記の総会が、6月13日(火)、14日(水)に富士吉田市市民会館で行われました。東海5県から80余名の参加がありました。

1日目は、山梨県考古博物館の田代孝氏より「釈迦堂遺跡にみる文化財の保護」と題した講演があり、その後、討論会に移り、神奈川県博物館協会と岐阜県博物館協会の現状報告がありました。岐阜県は川瀬善忠協会機関紙委員長が「ガイドマップ」について発表されました。

2日目は、釈迦堂遺跡博物館・風土記の丘考古研修所・山梨県考古博物館の施設見学が行われました。釈迦堂遺跡は中央自動車道建設に先立って調査された日本有数の縄文遺跡です。1,116個体の土偶(日本で発掘総個体数の約1割)が出土して注目を浴びました。いろいろな形態のものがあること、その製作法がわかること、など土偶の研究上欠かせない貴重な資料の豊富さに驚かされました。

総会への岐阜県からの参加者は6名でした。なお平成3年度は岐阜県が当番県になります。

岐阜県博物館協会総会開かる

平成元年度通常総会が、5月9日(火)、岐阜市科学館で行われました。本年度の役員の一部が次の通り選任されましたので報告します。

- ・名誉会長 梶原 拓(岐阜県知事)
- ・会長 蒔田 浩(岐阜市長)
- ・副会長 平田吉郎(高山市長)



- 副会長 青木允夫(内藤記念くすり博)
- ” 伊藤秀幸(岐阜県博物館)
- ・理事長 松本五三

◎岐阜県博物館協会表彰

次の3氏が表彰されました。

- ◇ 森崎利光氏(前岐阜県博物館長)
岐阜県博物館協会の副会長として、協会の運営、発展並びに事業の推進に多大の貢献をされました。
- ◇ 若宮多門氏(若宮修古館主)
岐阜県博物館協会の常任理事並びに若宮修古館主として、永年にわたり博物館界のため貢献されました。
- ◇ 二村澄郎氏(下呂町合掌村)
下呂町峰一合遺跡、中部山岳考古館並びに合掌村の職員として、職務に精励されその発展に貢献されました。

◎新入館・園紹介

平成元年5月に次の2館が入会されました。

- 八百津町郷土館
〒505-03 加茂郡八百津町八百津諸田
TEL 0574-43-3687
- 高山陣屋
〒506 高山市八軒町1-5
TEL 0577-32-0643

編集後記

平成元年度第1号をお届けいたします。昨年度の機関紙委員であった安藤志郎(県博)、吉村裕子(くすり博)が異動等で辞任されました。その後任に中島恬(県博)、横田宏(岐阜市博)が加わりました。よろしく。

岐博協「ガイドマップ」がお手元に届いたと思います。大好評です。未注文の館、追加注文の館はどうぞ事務局まで。